和名：コロンビアネコブセンチュウ
学名：*Meloidogyne chitwoodi*　Golden, O'Bannon, Santo & Finley
英名：Columbia root-knot nematode

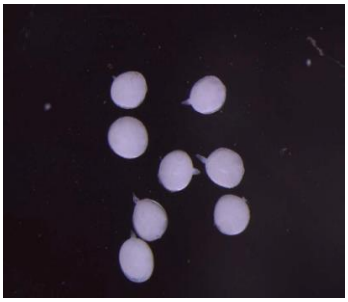

図　コロンビアネコブセンチュウ（雌成虫）

分布
トルコ、オランダ、ドイツ、ベルギー、ポルトガル、南アフリカ、米国（ハワイ諸島を除く。）及びアルゼンチン

寄主植物
キクゴボウ、テンサイ、ニンジン及びジャガイモの生植物の地下部

形態
雌成虫は乳白色の球形～洋なし形で、体長は430～740μmである。会陰紋は、円形～楕円形で条溝は荒い。また、肛門の背側の条線はとぎれて荒く波打つ。雄成虫は糸状で尾が丸く、体長は、887～1268μmである。2期幼虫は糸状で体長336～417μmである。

生態
卵内で1回脱皮した感染態の2期幼虫はふ化後、根内に侵入する。根に侵入した2期幼虫は、分泌物により根にゴールを形成し、3回の脱皮を経て成虫となる。雌成虫は組織内で成熟した後、根の表面にゼラチン状物質からなる卵のうを作り、その中に200～1000個産卵し、ほぼ単為生殖で増殖する。雄成虫は、土壌中に遊出して自由生活を営む。本種の発育適温は、20～25℃であるが、他のネコブセンチュウよりも低温（6℃以上）で感染・活動でき、卵または幼虫態で越冬し、0℃以下の低温に耐える。

被害
本種は根にこぶ状のゴールや壊疽を形成し、地上部の生育不良や立ち枯れ等の被害を生じさせ、ジャガイモの塊茎では内部に生じる壊死及び表面のゴールにより商品価値が著しく損なわれる。また、本種がジャガイモの根に寄生した場合は、ゴールがほとんど形成されないため肉眼での確認が困難である。